

制作概要

シナ合板をグラインダーで削って凹みを付け、そこにカシュー塗料を、一層ずつ色を変えて何十層となく塗り重ねて行く。塗料の層は徐々に厚みを増し、やがて、最も深く凹んだ部分が元の板の表面の高さにまで達した時には、それ以外の部分は板の表面より盛り上がることになる。この盛り上がった部分をサンダーで、板の表面と面一になるまで削って行くのである。そのことによって、それまで塗り重ねたすべての色が表面に現出する。色の層は地図上の等高線のように、途切れることなく縞模様を描き出し、周辺部から中心部へと、それまでの作業の蓄積と時間が視覚化される。

絵画が、支持体とその上加算された絵の具による総和である限り、描けば描くほど物質的な量は増加する。が、一方上記のような方法では、板と塗料が入れ替わっているだけで、体積における総量に変化はない。

このことは三十年来続けている自分の作品にとって大変重要な要素であると考えている。それは、人間の行為というものもまたそのようなものではないかと思うからである。どこかで家を建てればどこかで木が無くなる。どこかで富む人がいればどこかで飢える人がいる。火を燃やせば酸素は消費され、二酸化炭素が排出される。ひたすらエントロピーは極大へと向かう。総量としての宇宙は変わることなく、人間の行為などは膨大な時間の中に飲み込まれてしまう。宇宙の表層にほんのわずかの爪痕を残して……。

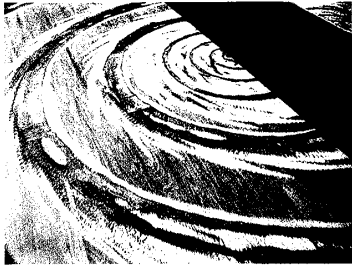
作品を作る行為の中に、常にこのような思いが去来する。

小林 伸雄

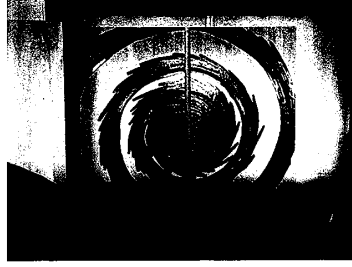
無題

「小林伸雄個展」

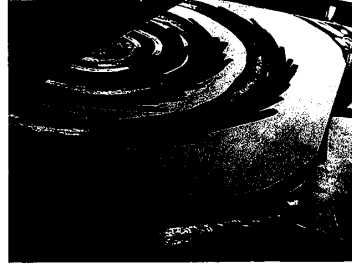
信濃橋画廊・大阪



1.合板をグラインダーで削る。



2.カシュー塗料を塗り重ねる。

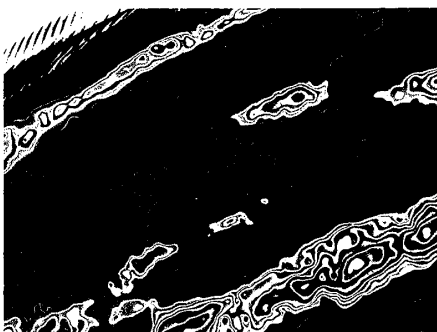


3.サンダーで研ぎ出す。



完成

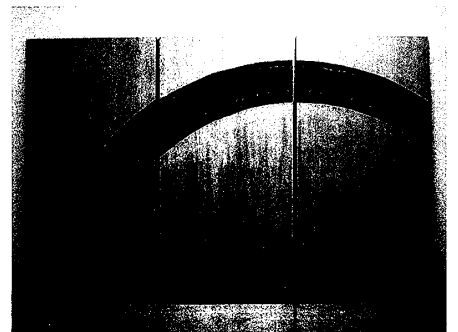
小林 伸雄
無題
1800×1800mm 2004年
シナ合板 カシュー塗料
「小林伸雄個展」信濃橋画廊（大阪）



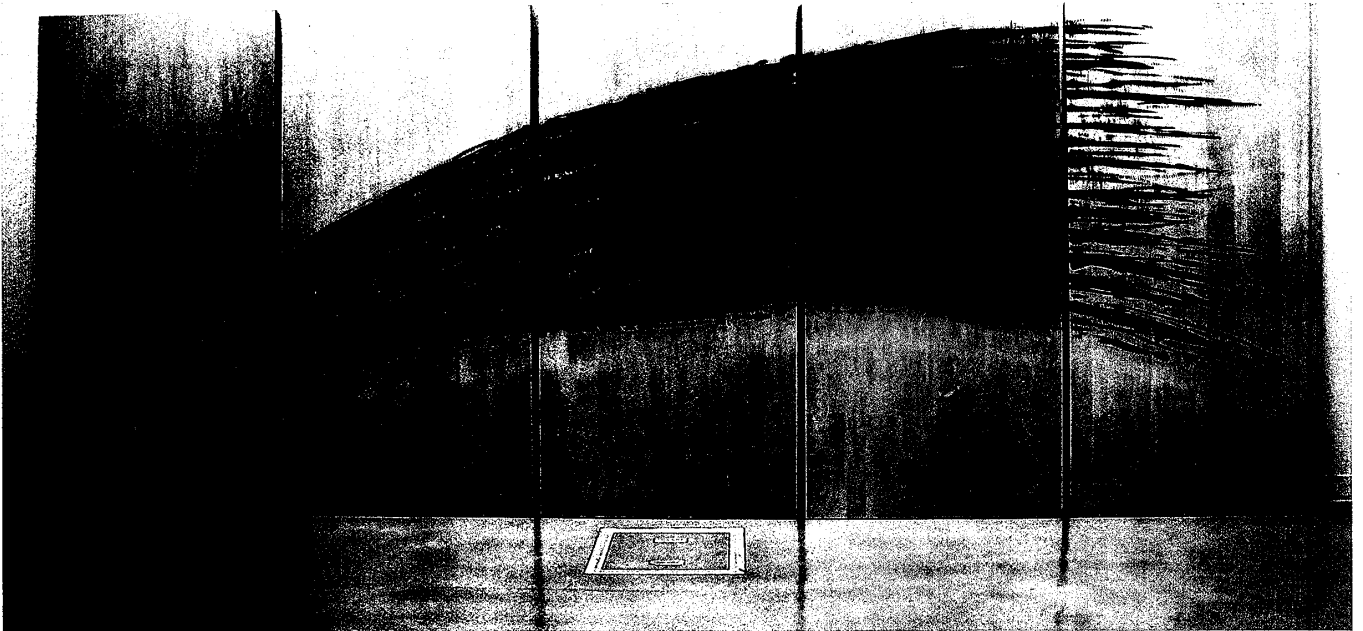
部分拡大



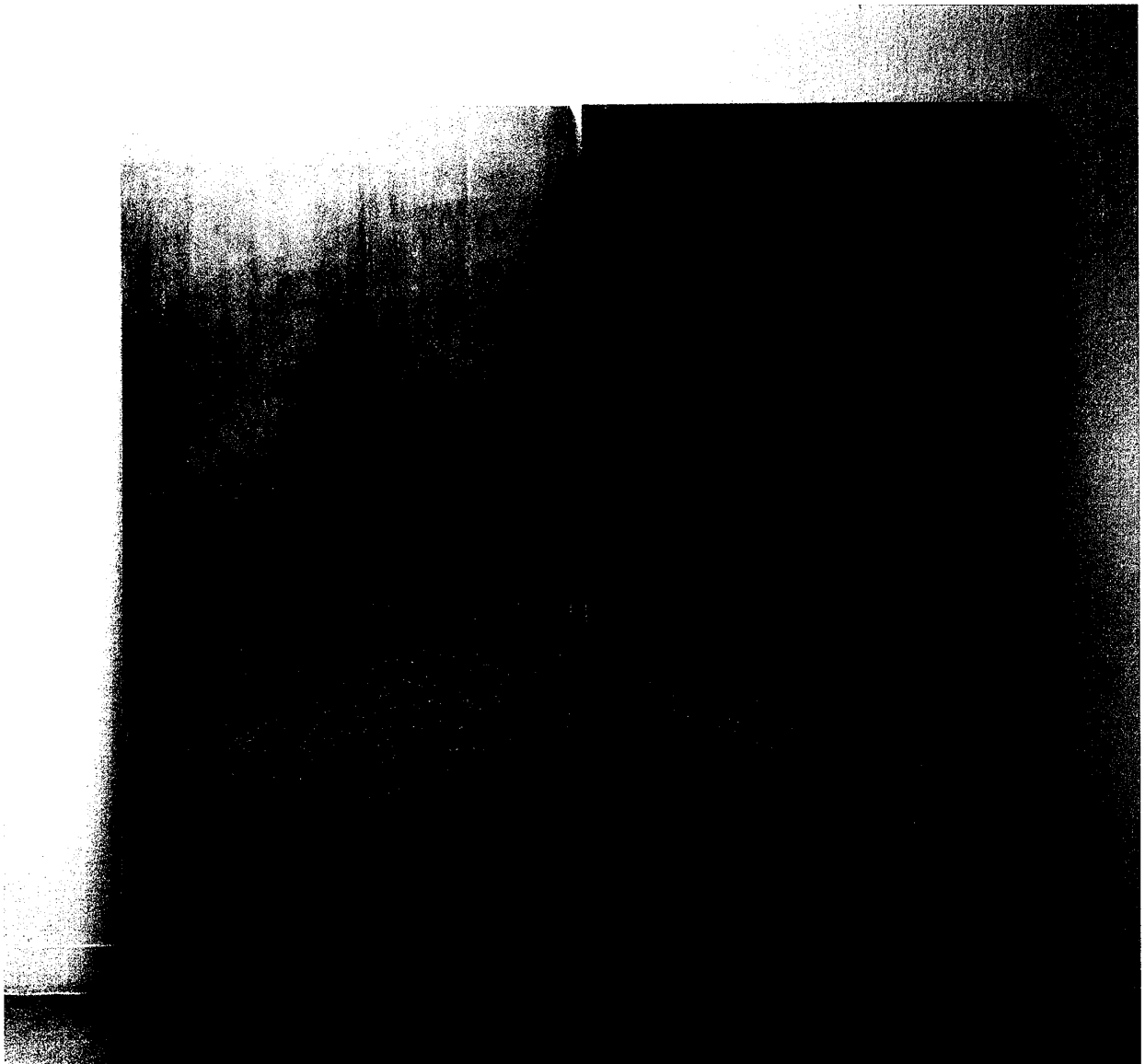
個展会場風景



「無題」 1800mm×2700mm



小林 伸雄
無題
1800×4500mm 2004年
シナ合板 カシュー塗料
「小林伸雄個展」信濃橋画廊（大阪）



小林 伸雄
無題
1800×1800mm 2004年
シナ合板 カシュー塗料
「小林伸雄個展」信濃橋画廊（大阪）